

本公演では“からだ”をテーマに、高山葉子とやまだ直子による舞台作品を披露致します。創作フィールドの異なる2人の女性作家は、広義かつ限定的なこのテーマにいかにして立ち向かうのか。そしてそこには一体どんな化学反応が起こるのか・・・必見です。

音、からだ、呼吸——。それらが絡み合い織りなす2つの世界を、どうぞお楽しみ下さい。

## 演劇

# 「湿気が多く温かい」

作：やまだ直子  
演出：山田亮  
出演：山田直子 ほか



やまだ直子  
NAOKO YAMADA

### ●プロフィール

愛知県立明和高校ピアノ専攻卒業、愛知県立芸術大学音楽学コース卒業。現在は朗読や戯曲執筆、舞台演出と幅広い活動に取り組んでいる。音楽を長年学んだ経緯から“音楽と演劇の融合”に興味を持っており、昨年度11月、「戯曲演奏計画」の代表として企画・運営を務め、自らも出品をした。近年では特に戯曲の執筆に力を注いでおり、主に会話劇を書くことを得意としている。今は、日常のドラマを繊細に描くことが目標。

### ●作品解説

公演タイトルの「ひふこきゅう」から自己の輪郭をまずイメージしました。

“私”の輪郭は、世界と密着しています。“私”は世界に隙間なく囲まれています。

“私”は世界に囲まれているので、世界には“私”の輪郭線と同じ輪郭線を持った穴がいくつも空いていて、やっぱりその中に“私”は存在しています。まるで“私”の輪郭の中で護られているように感じます。温かいですね。

そんなことを胸に、執筆しました。

演出は、ピアニストの山田亮が演奏のアプローチを応用して行います。

日時  
2015年 3月 8日(日)

第1回 13:30 開場 14:00 開演  
第2回 16:30 開場 17:00 開演

◇会場  
Menicon ANNEX HITOMIホール  
愛知県名古屋市中区葵3丁目21-19

◇チケット  
(一般) 前売1800円 当日2000円  
(学生) 前売1500円 当日1700円

◇チケットご予約お問い合わせ  
090-2929-3769  
hiyoki0613@gmail.com【担当日置】  
HP <http://hifukokyu.jimdo.com/>

本事業は、平成26年度愛知県立芸術大学学長特別研究費(研究代表者：石垣享)による助成を受けております。

## 鍵盤楽器奏者のための幻灯的舞台作品

# 「ソナチネ」

作曲/身体+空間構成：  
高山葉子  
ピアノ：加藤希央  
黒子：安田奈央



高山 葉子  
YOKO TAKAYAMA

### ●プロフィール

愛知県立芸術大学音楽学部音楽学科作曲専攻作曲コース卒業、同大学院修士課程修了。同大学院博士後期課程単位取得退学。“音楽における身体性”をテーマに精力的に創作・研究活動を続けている。これまでに、全国各地の美術館、アートスペース等で公演多数。音楽の文脈の中で、奏者の身体や様々な空間的要素を並列的に扱うという独特の作風(ミュージック・シアター)で好評を博す。2014年1月、初の個展《THE GARDEN of my mind》を開催。近年の創作におけるミニマリスト的思考の一端を示した。現在、名古屋芸術大学及び甲陽音楽学院非常勤講師。現代音楽舞台研究会代表。

### ●作品解説

谷崎潤一郎は随筆『陰影礼賛』の中で日本文化独特の“闇と光”に言及し、その中でこそ浮かび上がる事物の質感を自らの身体感覚を通して表現した。汁物をたたえた漆器のねっとりとしたぬくもり。羊羹の濃く甘い粒子の沈殿。暗がりに浮かび上がるそれらの存在感は震えるほど圧倒的で、私は文字を目にしているだけで、動けなくなる。時間の進行をとめて、その皮膚感覚の深い溝の中に沈み込んでゆきたくなる。・・・同じような想いを私は、何かを始める前の、灯りもない空っぽの舞台にも持ってしまおう。前夜の公演の興奮で舞上がった埃が静かに降りてきて、ぼんやりと底の曇った舞台。そこにただ置かれたピアノは、しんとしたある種清浄な空気の中、異様な重量を秘めて存在を示している。しかしその巨大な身体は、けして人を拒んではない。磨き上げられた曲面は僅かな光をゆらりと受け流して「触れてみたらどう？」と囁くかのようにこちらを見つめている。



JR千種駅地下改札口方面、5番出口より徒歩約4分  
地下鉄東山線：千種駅5番出口より、徒歩約4分  
地下鉄桜通線：車道駅4番出口出ですぐ左折徒歩約7分